

トマト（露地栽培・雨よけ栽培）

ナス科：アンデス西側高地

栽培暦

月 旬	2			3			4			5			6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業	<p>○ ——— △ ——— ● ——— </p> <p>播種 鉢上げ 定植 整枝 追肥 収穫開始 追肥 追肥 追肥 収穫終了</p>																										

■栽培のポイント

- 1. 作型の特徴** 露地栽培は、自然条件をいかして栽培する作型であるが、梅雨や夏季の高温などにより、裂果や病害が発生しやすく生産が不安定になりやすい。一方、雨よけ栽培は、露地栽培の欠点を解消するために、パイプハウスに簡単な雨よけ程度のビニールを被覆して高品質トマト生産を目的とするものである。
- 2. 品種選び** りんか409、桃太郎8は草勢のコントロールが難しく、雨よけ栽培が必須条件となり、プロの農家向けの品種である。自家菜園用の品種は、ホーム桃太郎などのできるだけ作りやすく収穫量の多い品種を選ぶ。
- 3. 連作障害** トマトは連作をきらう代表的な作物である。ナス科（なす・ピーマン・ししとう・じゃがいも等）の野菜との連作は青枯病などの土壌病害の発生が見られる。対策として、同一土壌での連作は避けて、他の作物との輪作を行うことが生産の安定につながる。また、抵抗性台木への接木も有効である。

■品種・種子量 りんか409、桃太郎8。a 当り 6～8 ml。

■育苗 ハウス内で電熱育苗を行うか、あるいは定植適期苗を購入する。

温床 播種床約 1.3 m²、鉢床約 8 m²を準備する。電熱線は 3.3 m²当り 250Wの割合で設置する。トンネルはビニール 2 枚の天井合わせにする。

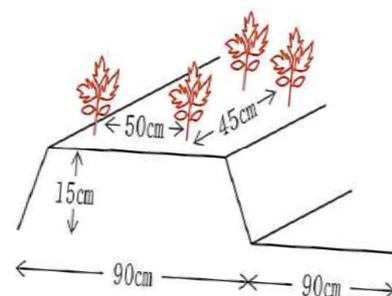
播種 穂木は 128 穴、台木は 72 穴のセルトレーに育苗用の培養土を詰め、播種前に培養土が均一に湿るよう十分にかん水してから播種し、厚さ 5 mmほどに覆土し、発芽までは濡れ新聞やポリマルチ等で覆い、トンネル内で管理する。発芽まで 25～28℃。発芽後は 20～22℃、夜間 18℃で管理する。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	200kg	—kg	成分量
苦土石灰	10	—	窒素 2.2kg
苦土重焼燐	4	—	燐酸 3.1
CDU-S682 (16-8-12)	6	—	加里 2.0
燐硝安加里 S604		3	2 kg×4 回



接ぎ木 連作地では土壌病害回避のため、接ぎ木苗を使用するのが良い。接ぎ木適期は、本葉 1.5～2 枚時、播種後 25 日前後で、幼苗接ぎを行う。穂木と台木を斜め 30 度にカミソリで切断し、台木に支持具を装着し、穂木を台木の切断面を合わせるように差し込み密着させる。接ぎ木後は、気温 25℃の密閉したトンネルで約 4 日間程度養生後、苗の状況を見ながら徐々にトンネルを開けて馴化する。接ぎ木では、台木の品種選定（ウイルス抵抗性の一致）には十分注意する。

鉢上げ 馴化後、セル内の根鉢が 2/3 程度回った時期に、直径 10.5～12 cm のポリ鉢に移植する。鉢土は前日から地温 25℃に上げておき、活着後は徐々に地温を下げて管理する。

温度管理 鉢上げ活着後は、昼温 20℃以上、夜間 10 度以上を保つ。8℃以下の低温におかれると変形果が発生しやすくなるので注意する。

順化 葉が重ならないように鉢のズラシを行って十分光を当て、定植 10 日前からは、外気温にならしてがっちりした苗に仕上げる。

育苗日数 55～60 日、本葉 8 枚で第 1 花房の第 1 花が開花する頃が定植適期である。

■**定植準備** 転換畑では排水の良い畑を選び、排水対策を徹底する。良質の有機物を施し、深耕を行う。

施肥 堆肥や苦土石灰等の土壌改良資材を施し (pH 5.8～6.5)、基肥はできるだけ緩効性肥料を用い、施用は定植 10 日前までには終えるようにする。

定植本数は a 当り約 240 株。

鉢は定植当日にたっぷりかん水しておき、根鉢がくずれないようにていねいに植える。

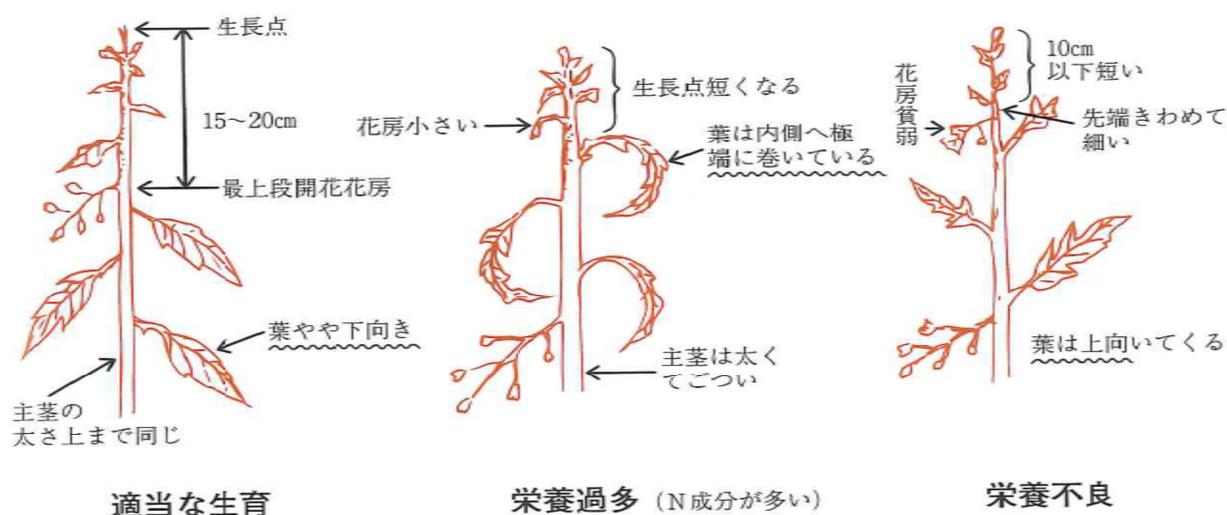
収穫しやすいように、花房を通路側に向けて植える。

■**定植後の管理**

誘引 露地栽培では、風雨にさらされるので支柱は竹等のしっかりしたものが望ましい。雨よけ栽培でも、ヒモでは強風により傷害を受けやすく、根傷みしやすいので注意する。

整枝 主枝 1 本仕立てとし、側枝かきは晴天の日の午前中に行い、10 cm 以内の小さいうちに

トマトの生育診断



摘み取る。

主枝の摘心 収穫目標花房の上3枚の葉を残し早めに摘心する。

敷きわら 6月下旬の梅雨明け前に敷きわらを行い、地温の上昇、乾燥、雑草、下葉の汚染を抑える。

かん水 露地栽培の場合、定植後の活着が順調であれば梅雨明けまでかん水の必要はないが、乾燥が続く場合は、株元にかん水を行う。

雨よけ栽培では、生育初期は控えめにし、果実が肥大し始めたら栄養生長にならないことを確認しながらかん水する。

追肥 追肥時期の目安として、第1果房の果実がピンポン玉大になった頃に行い、2回目は第3果房の果実が肥大し始めた頃に行う。

追肥はかん水と同様に、草勢の変化、特に生長点のある先端部をよく観察して決める。葉色が濃く、葉が外側に巻いているような栄養過剰状態では追肥の必要はない。葉色が薄く、葉がやや硬化して内側に巻きぎみの時は、栄養状態が悪くなっているため、早急に追肥を行う。

摘果 1果房当り4果着果を目標に、奇形果や病害果を小さいうちに摘果する。

■**病害虫防除** この作型では、疫病、灰色かび病、葉かび病等のかびが発生しやすいので予防散布ならびに初期防除に重点をおく。

■障害果発生の防止

尻腐れ果 石灰欠乏で発生するが、土壤中に石灰が十分にあっても土壌水分の乾湿差の大きいほ場や、多窒素等の原因で吸収が阻害された場合にも発生するので、養水分管理を適切に行う。

裂果 夏～秋にかけて多くみられる。急激な吸水で発生するので雨よけ栽培の場合はサイドに明きょを掘り、敷きわらなどにより乾湿差をなくす。

すじ腐れ果 果実の維管束が褐変し、着色が悪くなり果皮が硬くなる。加里欠乏や窒素過剰、日照不足等が原因で発生するので、堆肥を十分に施し、化学肥料のバランスをよく考えて施肥する。

■**収穫** 7月中旬以降から収穫が始まり、収量はa 当り 800～1,000 kg。
桃太郎 8 などの完熟系のトマトは 60～70%の着色で収穫する。また、果実温が高いと日持ちが悪くなるので、涼しい時に収穫する。

量ってみました肥料堆肥の重さ

	A社苦土石灰	B社熔成磷肥	C社油粕	D社発酵鶏糞	E社牛糞堆肥
大きじ1	18 g	22 g	8 g	10 g	4 g
紙コップ (すりきり 200 cc)	240 g	280 g	107 g	116 g	75 g
おわん (すりきり 300 cc)	360 g	420 g	160 g	175 g	113 g
内径 18 cm ボール (すりきり 1.2ℓ)	1.4 kg	1.7 kg	640 g	700 g	450 g
肥料バッド (18ℓ容器に 10ℓ入れる)	12.0 kg	14.0 kg	5.4 kg	5.8 kg	3.8 kg

※堆肥は特に水分による変動が大きい